

風有也

〔茶道釜蹄一〕釣棚之部

道幸 利休形杉後に開戸あり、杓釘袋懸ヶ釘あり、畔翁より袋釘をとる、極老は後の開より水さしへ水を加ふ、板敷にも置き、疊の上にも置なり、

飾道幸は疊スレあり、手前は臺目ハコビ手前の通り、吉野杉なり、

水屋道幸 元伯好、今日庵に用ゆ、竹簧一重棚なり、後打拔、常は戸を入る、夏は戸をはづし、簾を懸る、夜分は桐の懸燈臺を用ゆ、極老は水遣兼用にもなす、釣木向は杉の木、前は竹なり、

〔南方録二〕洞庫三様

休利休^〇千の洞庫横三尺にして前一枚、襖内の棚一段也、うしろには小障子有、茶具等さし入る様にしたる也、又一様は、下段を竹すのこにして、水桶のちいさを置、こぼしなしに手前ははたらかれたる事も有しと也、二段棚をつりしに他流也、一様は、横三尺、入壹尺四寸にして板を張、かねにても、又は土やきにても、丸くして落しいれ釜を掛る、上は小襖を立て茶具を入る也、又下にも小棚一重釣もよし、板の上に水指を置也、勝手に如此する事也、客席の茶所にてはなし、

〔和泉草三〕道幸

一道幸ハ中興出來タル也、座鋪へ切々出入セマジキ爲也、老人用テ吉置合朝晝ノ替有朝ハ茶ニ遠キ物晝ハ茶ニ近キ物置合也、茶立ル時、道幸ノ障子ヲ明諸具所々ニ置合茶ヲ立ル也、水指ノ水用ル時、水指ヲ少シ前江引出ス物也、仕廻ノ時道具ソコへ直シ、水覆持勝手へ入、水次持出、水指ニ水ヲ次、初飴タル所へ入置也、道幸ノ置合ハ物置ニテ候間、客見ヌガ吉ト云人モ有、見テ吉ト云人モ有、マチへ也、道幸の置合見ル事ハ、袋棚ノ置合見ルニ同前吉ト定タリ、

〔倭訓栞^{中編二十五}〕みづや 神社茶寮にいへり、水屋の義沃盥の處なり、水屋桶あり、

水屋